

3サンハイツせけんばな紙

第 35 号

令和6年10月1日

編集責任者

田島康弘(3-101)

作成責任者

渡邊芳憲(9-503)

編集委員

小松清明(10-501)



ヤブガラシ(藪枯らし) 別名 ビンボウカズラ
刈り取り前の6月下旬ごろ、2号棟の庭の生垣のすぐそばの樹木(クスノキ)に張り付いて伸びていました。この写真のように、つるを伸ばして他の植物に絡みつき、小さい植物であれば藪を作って枯らしてしまうほど生育が旺盛なのでこの名前がついています。花期は夏(6〜8月ごろ)ですが、写真のヤブガラシは花の咲く前に刈り取られたようです。花には蜜が豊富に含まれていて、蜂や蝶などの昆虫がよく集まっています。スズメバチも良く来るそうです。伸び始めた頃のつるのやわらかい芽は山菜として食用になり、私も食べたことがあります。おおいし方だと思えます。駆除が困難な野草として地下茎で増えるので、その根絶はほぼ不可能です。

団地内の野草

田島康弘(3-101)

10月行事予定

- 7日(月) ◎体幹トレーニング(1回目)
10:30~11:30 鴨池生協クリニック5階 参加費:500円
申込み:担当-片平のぞみさん(☎080-2739-3578、099-260-3532)
- 9日(水) ◎火災予防の日(毎月9日)
◎スマホ相談会 10:00~12:00 鴨池校区公民館
要予約 7日午前中までにコミュニティ協議会(☎099-285-1522)まで
- 12日(土) ◎鴨池小学校 土曜授業
◎鴨池中学校 土曜授業
◎鴨カムサタデー 鴨池中学校かもなかまつり会場内
・鴨カムお結び 12:00~13:30(提供完了次第終了)
料金:18歳以上/300円、18歳未満/200円、未就学児/無料
・スマホ相談会 12:00~13:30 予約不要
・あそびうたサークルぱすてる レクレーションとミニコンサート
◎かもなかまつり 12:00~17:00
鴨池中学校校庭・体育館(詳細は「LLかもいけ127号」を参照)
テーマ:「繋がろう地域と!カモカモ go!go!」
内容:企業マルシェ、体育館ステージ発表、模擬店
- 17日(木) ◎第6回プティエコール(女性学級)「聴導犬とともに生きる」
10:00~12:00 鴨池校区公民館 参加費:無料 定員:20名
申込み締切:前日16日午前中までにコミュニティ協議会(☎099-285-1522)まで
講師:安藤美紀さん(NPO法人MAMIE代表、公益社団法人日本聴導犬推進協会理事、日本聴導犬パートナーの会代表)
- 23日(水) ◎スマホ相談会 10:00~12:00 鴨池校区公民館
要予約 21日午前中までにコミュニティ協議会(☎099-285-1522)まで
◎鴨かもサロン(体幹トレーニングの簡易版)
10:00~11:20 鴨池生協クリニック1階フロア 参加費:100円
申込み:担当-片平のぞみさん(☎080-2739-3578、099-260-3532)
- 27日(日) ◎鴨池小学校 運動会
◎第6回ダレデューモマナヴェール(成人学級)
「町田久成(初代東京国立博物館館長)の魅力を語る」
講座:16:00~ 懇親会:17:00~ 場所:真砂六区公民館
- 28日(月) ◎体幹トレーニング(2回目)
11:00~12:00 鴨池生協クリニック5階 参加費:500円
申込み:担当-片平のぞみさん(☎080-2739-3578、099-260-3532)

※申込み・問い合わせ

鴨池校区コミュニティ協議会事務局 ☎099-285-1522 平日(月~金祝日休み)9:00~12:00

南海トラフ地震の話（第2回）

渡邊芳憲（91503）

■はじめに

先月号で、南海トラフ地震について、その前提となるお話を書かせていただきました。今回も、前回の書き残しを述べさせていただきます。

■半割れ、一部割れ

まず、前回予告していました「半割れ、一部割れ」です。ここで「割れる」と言っていますが、これは地震学者など関係者の間で言われる言葉で、地震が起こることを指しているそうです。私も最初にこの言葉を目にしたとき、プレートの先っちょが割れると言うことをイメージしました。例えるなら、は虫類の舌が割れているような状態を考えました。違ったんですが、でもまるっきり間違っているのではとも思っています。

南海トラフは駿河湾から日向灘までの結構な長さがありますが、これが同時にバネがはじけるように地震が発生すれば、「全割れ」となります。また、例えば、駿河トラフから熊野海盆までがはじけたら、これは「半割れ」となります。

日向海盆ではじけたら「一部割れ」です。ここで怖いのが、「半割れ、一部割れ」だそう

です。「全割れ」が怖いのは当然なのですが「半割れ、一部割れ」では、隣り合う所で状態が違わけます。一方ははじけてひずみがなくなった状態、その隣はひずみが溜まったままの状態です。この状況が「ヤバイ」訳です。実際、前号の下の表で、一本の横棒に二つの名前が書かれている所が4箇所あります。これが半割れで下に抜き書きしましたが、短くは安永東海地震と安永南海地震が30時間の間隔、長くは永長東海地震と康和南海地震が2年2月の間を置いて発生しています。

※初めの四つの地震については、時代が古く、日付の確証が取れなかったため、私の判断です。

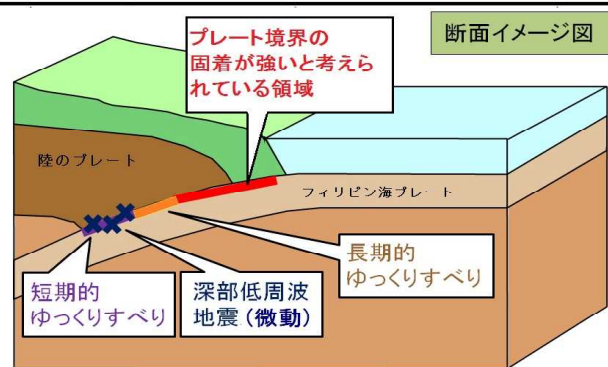
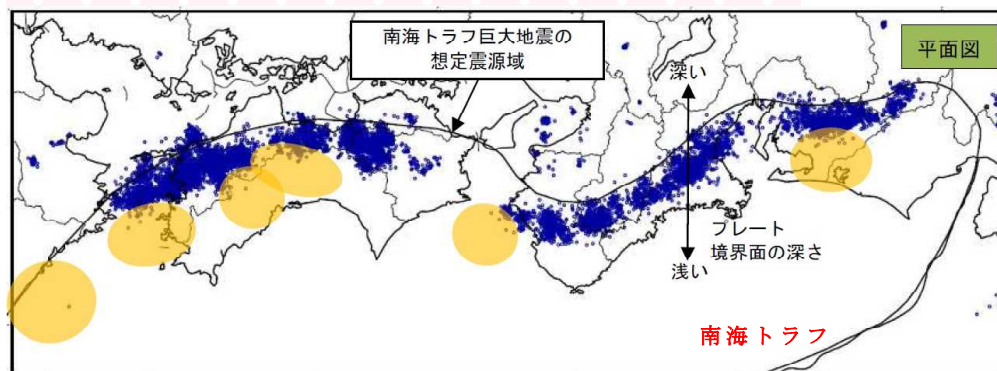
2年以上の間隔が空けば、何とかなりましょうが、時間単位で発生する本震の発生は、復旧作業などに従事する人などまで巻き込んだ二次災害の危険も出てきます。適切な例ではありませんが、熊本地震で、本震で逃げることできた学生さんが、その後の余震で亡くなりました。これ以上の災害になることは容易に想像できます。

■想定される震源域

次の図は、紺色の点の集合と黄色い○が目立ちますが、実は

半割れの状況

地震の名称	発生年月日 (西暦)	間隔 (y年, m月)
○ 永長東海地震	1096. 12. 11	2y2m
○ 康和南海地震	1099. 2. 16	
○ 正平(康安)東海地震	1361. 7. 26	0y1m
○ 正平(康安)南海地震	1361. 8. 5	
○ 安永東海地震	1854. 12. 23	0y0m
○ 安永南海地震	1854. 12. 24	
○ 昭和東南海地震	1944. 12. 7	2y0m
○ 昭和南海地震	1946. 12. 21	



ここは直接には大きな地震源ではありません。紺色の集合の上に線がありますが、この線の辺りが沈み込んだフィリピン海プレートが深さ約35kmに達する所です。この線は、東は駿河湾を通って南海トラフと、西は大分県佐伯市辺りからすくめて海岸線に沿うかたちで、日向灘まで続いていき、南海トラフにつながります。

この線の内側が、想定される震源域です。では、紺色の点と、黄色い○は何だとなりますが、先ず、紺色の点は、下の「断面イメージ図」の中の「短期的ゆっくりすべり」「深部低周波地震(微動)」の所です。この辺りで深さが約35kmとなります。同じ図で紺色の右側に黄色い部分があります。ここが、上の平面図で黄色い○の部分で、「長期的ゆっくりすべり」となります。(色味が違うのはご容赦を)

大地震の直接の原因となるのは、赤の部分で、「プレート境界の固着が強い」と考えられている領域」となっています。この部分で、二つのプレートがくっついて陸側のプレートを引きずり込みます。この部分は、平面図で言うと、トラフから紺と黄色の下までの広い部分です。

この部分は、平面図で言うと、トラフから紺と黄色の下までの広い部分です。